

中国四国教育学会

第72回大会プログラム

2020年11月21日(土)・11月22日(日)

広島大学・ウェブ開催



<目次>

大会参加要領	1
公開シンポジウム	3
自由研究発表(第一日)	5
自由研究発表(第二日)	19
ラウンドテーブル	31

現時点では、自由研究発表・ラウンドテーブルをウェブで、シンポジウムを対面とウェブの併用で実施することを予定しておりますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては変更する可能性もございます。最新の情報は学会ホームページ <https://home.hiroshima-u.ac.jp/cssse/html/meeting.html> でご確認ください。

大会参加要領

1. 大会形式

- ・ 自由研究発表：ウェブ実施（非同期型の掲示板方式）
- ・ シンポジウム：大講義室での対面とウェブの併用型実施
- ・ ラウンドテーブル：ウェブ実施（非同期型の掲示板方式）
- ・ 総会：ウェブ実施（同期型）

2. 大会ホームページ

学会ホームページ (<https://home.hiroshima-u.ac.jp/cssse/index.html>) 内に、「大会掲示板」のリンクを貼っておりますので、別紙記載のパスワードを使用して、お入りください。パスワードは会員限定で送付しておりますので、流出にはお気をつけください。

3. 大会への参加方法

◆自由研究発表

①資料掲載の方法

- ・ 発表資料は「大会掲示板」の中から、ご自身が所属している部会を選択し、ご自身でアップロードしてください。
- ・ 発表資料は Word、PowerPoint などで作成し、PDF ファイルでアップロードしてください。発表資料の様式に指定はありませんが、通常自由研究発表に足るものとしてください。
- ・ 資料のアップロード期間は、11月16日（月）9時から11月20日（金）23時59分までです。期間内であれば修正等は自由に行ってください。資料のアップロードは、時間的な余裕をもって行ってください。
- ・ 11月21日（土）に発表資料がアップロードされていることの確認をもって、自由研究発表が成立したと見なし、CD-ROM への投稿を認めます。
- ・ 資料のアップロード方法の詳細は、掲示板で説明しておりますので、掲示板の中の「Oモデル部会」をご参照ください。

②質問・意見の送り方

- ・ 大会期間内（11月21日（土）9時から11月22日（日）17時まで）に「大会掲示板」にアクセスし、掲示板内で議論を行ってください。積極的な書き込みをよろしくお願いいたします。
- ・ 掲示板への書き込み方等の詳細は、掲示板で説明しておりますので、掲示板の中の「Oモデル部会」をご参照ください。
- ・ 発表者は、ご自身が所属されている部会の発表への積極的な質疑をお願いします。また質問を受け取った場合は、可能な限り回答をよろしくお願いいたします。

◆ラウンドテーブル

- ・ 実施形式は自由研究発表に準じます。
- ・ Zoom のミーティング URL を発表資料に貼付け実際にミーティングを行う、外部ストレージを活用し動画を視聴できるようにする等の方法でラウンドテーブルを行っていただいても構いません。

◆公開シンポジウム

- ・ 対面とウェブの併用型での実施を予定しています。
- ・ 対面、ウェブとも参加方法の詳細につきましては、後日、大会ホームページまたは「大会掲示板」の中の「シンポジウム」にてお知らせをいたします。

◆総会

- ・ 実施の詳細については、後日、大会ホームページまたは「大会掲示板」の中の「総会」にてお知らせいたします。

◆その他

- ・ 大会掲示板へのアクセスは以下の URL または QR コードをご利用ください。
URL: <https://cssse72.wixsite.com/mysite>

◆大会掲示板 QR コード



- ・ やむをえず発表を取り消される場合は、速やかに大会実行委員会までご連絡ください。
E-mail: cssse72@gmail.com
- ・ その他ご不明な点がございましたら、大会実行委員会までお問い合わせ願います。

大会実行委員会および学会事務局連絡先

大会実行委員会

広島大学東広島キャンパス（東広島市鏡山1-1-1）

委員長：小川 佳万

委員：三時眞貴子、杉田 浩崇、鈴木 理恵、曾余田浩史、滝沢 潤、中坪 史典、
七木田 敦、久井 英輔、松田 充、丸山 恭司、吉田 成章

※代表連絡先 松田 充 Tel (082) 424-4610 E-mail: cssse72@gmail.com

学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科教育学講座内

事務局長：山田 浩之 事務局幹事：李 憶南

※連絡先：李 憶南 (082)-424-6748 cssse@hiroshima-u.ac.jp（事務局共通）

公開シンポジウム

会場：対面とウェブの併用
13：30～16：30

学校の日常が突然に引き剥がされたとき：
戦争、自然災害、パンデミック下の学校教育

【司会者】

三時眞貴子（広島大学）
中坪 史典（広島大学）

【提案者】

川口 広美（広島大学）
田端 健人（宮城教育大学）
大門 正克（早稲田大学）

【指定討論】

丸山 恭司（広島大学）

【趣旨】

2020年2月27日木曜日の夕刻、安倍首相（当時）は全国の小中高・特別支援学校に対し、翌週月曜日の3月2日から春休みまでの一斉臨時休業を要請する。ほとんどの子どもたちにとって翌日の28日金曜日が突然に年度最後の登校日となり、3月に計画されていた様々な学校行事は中止・大幅変更を余儀なくされた。新年度に入っても新型コロナウイルス感染症の蔓延は収束せず、北海道に続き4月7日には7都府県に、4月16日には全国に緊急事態宣言が発出される。これに伴い学校も連休明けの5月6日まで再び休業とされ、さらに5月末まで休業が延長された。

3月初めから5月末までの学校休業中、児童生徒学生も教職員も何もしていなかったわけではない。思い出作りの最後の一ヶ月を奪われた卒業生のために、新しい学校に不慣れな新入生のために、クラブ活動を頑張ってきた部員のために、教職員や保護者や児童生徒学生自身が様々なことを試み、自宅で学習が進むよう様々に工夫したはずである。そうした試みや工夫の中には、6月以降の学校の「新しい日常」において活用されているものもある。

突然に学校が閉じられたとき、学校関係者が維持しようとしたものは何であったのか。どのような困難に直面し、何を諦め、何をどのように克服したのか。また、ルーチン化した日常に覆われたまま意識する必要のなかった学校教育に対する私たちの前提を、COVID-19パンデミックが突然に露呈した。私たちが暗黙のうちに依存していた前提は何であったのか。そのうち新しい状況において何が更新され、何が維持されるべきなのか。

突然の学校休業から半年余りが過ぎたいま、今後の新常态下の学校教育を構想するためにも、パンデミックが露呈した学校教育に対する私たちの前提を明確にし、学校でできること・学校教育がすべきことを展望しておきたい。

もちろん、当然の日常が突然に切断されるのは、パンデミックに限ったことではない。空爆や地震・水害によってもそれまでの日常が継続不可能となる。それぞれ学校教育の制約の仕方は異なるであろうが、過去の戦時や災害時にあって学校関係者が何を大切に、何を試み、どのような新しいやり方を獲得したのかを知ることから、今後に備えることができるのではないかと。

本シンポジウムでは、学校の日常を突然に切断するものとして、パンデミックに加え、戦争と自然災害を取り上げて、大門正克（早稲田大学）、田端健人（宮城教育大学）、川口広美（広島大学）の三氏に報告いただく。まず、日本近現代史を専門とする大門氏は、戦中戦後日本の「生存」の歴史を解明する研究の一環で戦時下の子どもの日常に光を当てられている。田端氏は、現象学の手法を用いた授業分析で業績を積み重ねた研究者であるが、『学校を災害が襲うとき：教師たちの3.11』（春秋社、2012年）においては、東日本大震災の被災下で職責を果たそうとする教師の姿を描かれている。川口氏は、市民性教育の切り口から新しい時代の教育を模索されている社会科教育学者であり、今回の学校休業時にいち早く教員向けのオンラインセミナーを発信されている。

*本シンポジウムは中国四国教育学会と広島大学教育ヴィジョン研究センターとの共催で行われる。また、日本教育学会の地区研究活動の指定を受ける予定である。

大会 第一日

1—「教育思想・学説」部会

司会者：平田 仁胤
(岡山大学)

- | | |
|--|-------------------------|
| ① 音楽教育における「新教育の地平」 | 樋口 史都
(広島大学大学院・院生) |
| ② 音楽と〈知る〉ことのかかわりに関する研究 | 辻 勇介
(広島大学) |
| ③ 教育論争に現れる批判的実践としての教育学とその特徴
—戦後経験主義批判を事例に— | 深見 奨平
(宮崎大学) |
| ④ 「痛み」をめぐる物語論の再検討 | 正木 遥香
(大分大学) |
| ⑤ 近世哲学の見地からのヘルバルト再評価の試み
—カント主義者としてのヘルバルト— | 佐藤 宗大
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ 「教育目的論」についての一考察
—J. ホワイトからP. スタンディッシュへの展開を踏まえて— | 竹本 晋也
(兵庫県西脇市立重春小学校) |
| ⑦ C. ムフのヘゲモニー論とその教育学的意義 | 山中 翔
(広島文化学園大学) |
| ⑧ 条件法を用いたかたりに関する教育哲学的考察 | 杉田 浩崇
(広島大学) |

2—「教育史Ⅰ」部会

司会者：小宮山 道夫
(広島大学)

- | | |
|--|----------------------------|
| ① 昭和30年代から50年代における文部省の音楽科実践研究の意義
—表現領域に関する研究に着目して— | 渡部 亜美
(広島大学大学院・院生) |
| ② 日本占領期における北京輔仁大学の細井次郎教授研究
—彼の「ペスタロッチー」精神を手掛かりに歴史を読み解く— | 劉 幸
(北京師範大学) |
| ③ 中国における道德教育の近代化 | 班 婷
(愛媛大学) |
| ④ キモノ文化の学習開発を支援する「足利銘仙」の研究(Ⅱ) | 柴 静子
(放送大学広島学習センター客員教授) |
| ⑤ 広島図書刊行の「基礎科学教育叢書」に関する研究 | 柴 一実
(広島大学名誉教授) |
| ⑥ 戦後日本の少女雑誌における『愛読者大会』に関する一考察 | 田中 卓也
(静岡産業大学) |
| ⑦ 岡山県倉敷小学校の「合科学習」実践と授業視察
—「奈良女子高等師範学校附属小学校参観記録」を手がかりに— | 鈴木 和正
(常葉大学) |

3—「特別活動・総合学習」部会

司会者：伊勢本 大
(松山大学)

- | | |
|---|---|
| ① 中学校における話し合い活動を通じた居場所感の向上に関する一考察 | 延本 佳子
(広島大学大学院・院生) |
| ② 学校へ参加する保護者の特性 | 藤井 宣彰
(県立広島大学) |
| ③ ドイツにおける児童会・生徒会活動の組織方法に関する一考察 | 早川 知宏
(島根大学) |
| ④ 学級経営ナラティブ分析法の検討
—教師の語りと児童の活動の関わりに着目して— | ○岡田 聖
(愛媛大学大学院・院生)
白松賢
(愛媛大学) |
| ⑤ 「学習者基点の学び」を軸としたカリキュラム・マネジメントに関する考察(2) | 村上 孝憲
(広島県立祇園北高等学校) |
| ⑥ 「生きる力」についての一考察
—総合学習を展望して— | 洪山 昌雄
(九州大学大学院・院生) |
| ⑦ 総合的な学習の時間における指導の実態と課題 | ○尾川 満宏
(愛媛大学)
○山田 浩之
(広島大学)
班 婷
(愛媛大学)
張 慶怡
(エール学園)
陳 雨
(広島大学大学院・院生) |

4—「カリキュラム」部会

司会者：鈴木 由美子
(広島大学)

- | | |
|---|--|
| ① 「学ぶ意義」を見出す学校づくりに関する研究
—キャリア教育を柱としたカリキュラム・マネジメントを通して— | 木下 美紀
(広島大学大学院・院生) |
| ② 「創発モデル」に基づいたカリキュラム・マネジメント論に関する考察
—E. アイズナー (E. Eisner) の「教育的想像力 (Educational Imagination)」概念に着目して— | 佐々木 優
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 「探究する主体」を育成するカリキュラム・マネジメントに関する考察 | 下田 慶史
(広島大学大学院・院生) |
| ④ NYCブループリントにおけるダンスリテラシー
—5th Grade(8歳から11歳まで)の教授・習得内容— | 菅尾 尚代
(広島修道大学) |
| ⑤ 中学校数学における統計的文脈の解釈に関する研究 | 張 歆祺
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ 中学生における読解力と数学学力の関係性 | 織田 佳乃子
(高知工科大学大学院・院生) |
| ⑦ 教科書はどのような「主体的・対話的で深い学び」を求めているか
—2019年度検定済み小学校教科書の分析を通して— | ○吉田 成章
(広島大学)
○松田 充
(広島大学)
○宗近 秀夫
(広島大学研究生)
○二宮 諒
(広島大学大学院・院生)
○阿蘇 真早子
(広島大学大学院・院生)
○藤野 健太郎
(広島大学大学院・院生)
○三戸部 由幸
(広島大学大学院・院生) |

5—「生活指導・生徒指導」部会

司会者：尾島 卓
(岡山大学)

- | | |
|--|------------------------|
| ① 子ども理解における“身体性”に関する研究 | 藤原 由佳
(広島大学大学院・院生) |
| ② P. フレイレにおける社会運動と「意識化」の関係 | 佐藤 雄一郎
(大阪教育大学) |
| ③ 教員志望学生はLGBTQ+をどのように授業で扱うことができると考えているのか | 村田 一朗
(広島大学大学院・院生) |
| ④ セクシュアリティをめぐる当事者性と「アライ」概念に関する一考察 | 櫻井 瀬里奈
(広島大学大学院・院生) |
| ⑤ 教育と福祉の協働に関する基礎的研究
—学校のケース会議を起点とした越境する教育実践の展開— | 竹内 元
(宮崎大学) |
| ⑥ 文部科学省「生徒指導」理論の再検討
—『生徒指導提要』を中心として— | 石田 美清
(順天堂大学) |
| ⑦ 中学生のキャリア発達をどう捉えるか
—「適応」と「抵抗」の視点を手がかりに— | 大塚 直也
(愛媛大学大学院・院生) |

6—「社会教育」部会

司会者：久井 英輔
(広島大学)

- | | |
|--|---|
| ① 文化施設における公共性の再考
—〈教育の公共圏〉の「民主主義」と「共同体」に着目して— | 酒田 裕樹
(広島大学大学院・院生) |
| ② 世代間交流による子育て支援に関する一考察
—H市の事例を中心に— | 楊 丹
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 地域と学校が連携・協働した音楽学習の実態
—地域学校協働活動の事例に着目して— | 三浦 ひかる
(広島大学大学院・院生) |
| ④ 合唱活動の場における相互行為 | 小坂 光
(広島大学大学院・院生) |
| ⑤ 持続可能な地域社会創りを行う子どもの育成に関する研究 | 兼崎 素子
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ 過疎地域における子育て支援実践の現状と課題
—ファミリーサポートセンターの利用に着目して— | 富田 雅子
(岩国短期大学) |
| ⑦ コミュニティ・スクールの導入による地域高齢者の生きがい創出に関する研究 | ○諏訪 英広
(川崎医療福祉大学)
○藤井 瞳
(川崎医療福祉大学) |

7—「教育行政・制度」部会

司会者：藤本 駿
(高松大学)

- ① タイにおける地方教育ガバナンスに関する研究
ー官僚支配から「社会的管理」のほうへー
橋本 拓夢
(広島大学大学院・院生)
- ② カナダにおける言語マイノリティの教育権に関する研究
内田 圭佑
(広島大学大学院・院生)
- ③ 大学入試における新型コロナ時代への対応
ー韓国の動向を中心にー
姜 姫銀
(福岡大学)
- ④ 中国の対外言語政策の転換
ー中外語言交流協力センターの成立を巡ってー
劉 国彬
(福山大学)
- ⑤ 中国の義務教育における学校間格差の実態
馬 楽
(広島大学大学院・院生)
- ⑥ 中国の大学入試改革
ー江蘇省を事例としてー
○小野寺 香
(奈良女子大学)
○小川 佳万
(広島大学)
○石井 佳奈子
(広島大学大学院・院生)

8—「国際理解教育」部会

司会者：牧 貴愛
(広島大学)

- | | |
|--|------------------------|
| ① カンボジア社会科カリキュラムにみられる国民形成と市民育成のせめぎ合い
—2006年版ナショナルカリキュラムの分析— | 守谷 富士彦
(広島大学大学院・院生) |
| ② ナショナル・アイデンティティ教育の国際比較
—アイデンティティの再構築を目指したオーストラリアの歴史教育の位置と特質— | 両角 遼平
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 「総合的な学習の時間」における ESD の学習目標に関する教授学的考察 | 卜部 匡司
(広島市立大学) |
| ④ 中国の高校系統地理教科書における日本記述の教育的機能
—中国の国家政策との関係に注目して— | 孫 玉珂
(広島大学大学院・院生) |
| ⑤ 国際共同学位プログラムの展開過程とその価値に関する研究 | 二宮 皓
(愛知みずほ短期大学) |

9—「教師教育Ⅰ」部会

司会者：米沢 崇
(広島大学)

- | | |
|---|--|
| ① 実践化に繋がる教師の実践的知識の発達過程に関する一考察
—授業研究会経験に対する語りに着目して— | 佐々木 佳宏
(広島大学大学院・院生) |
| ② 小学校裁縫専科正教員臨時試験検定教科試験問題の分析
—1920年代末期から1930年代初期における京都府を事例として— | 遠藤 健治
(美作大学) |
| ③ 戦後初期における教員の責任意識とその課題
—広島県内の県史・市町村史・学校史等を中心として— | 小川 英夫
(広島大学大学院・院生) |
| ④ 教育方法学テキストの比較分析
—コンテンツとコンピテンシーとの関係— | ○高木 啓
(千葉大学)
○吉田 茂孝
(大阪教育大学)
○樋口 裕介
(福岡教育大学)
○北川 剛司
(奈良教育大学)
○熊井 将太
(山口大学)
山岸 知幸
(香川大学) |
| ⑤ 学校づくりにおける「動的相対主義」のデザイン論的意義の検討(2)
—組織学習としての『『ずれ』による創造』を中心として— | ○曾余田 順子
(広島大学)
○曾余田 浩史
(広島大学) |

10 — 「幼児教育 I」部会

司会者：中坪 史典
(広島大学)

- | | |
|--|--------------------------------------|
| ① 子どもの絵本体験に関する一考察 | 明尾 香澄
(広島大学大学院・院生) |
| ② コレクション
ー子どもの現象学的考察ー | 中野 桂子
(筑紫女学園大学) |
| ③ 絵本教材からみた幼保小連携のあり方 | 深澤 悦子
(広島都市学園大学) |
| ④ 幼稚園の父母の育児における相互関係 | 森 依子
(東九州短期大学) |
| ⑤ 登園時の受け入れに対する保育者の意識
ー1歳児担当保育者へのグループインタビューからー | 本岡 美保子
(広島都市学園大学) |
| ⑥ 保育者の働き方に関する一考察
ー語りから顕在化する困難感ー | ○佐藤 和順
(佛教大学)
柏 まり
(岡山県立大学) |
| ⑦ 保育者の専門性に関する一考察
ー遊びを通した総合的な指導力の養成に着目してー | ○柏 まり
(岡山県立大学)
佐藤 和順
(佛教大学) |

11 — 「音楽 I」 部会

司会者：伊藤 真
(広島大学)

- | | |
|---|------------------------|
| ① 音楽大学の学生が主体的に行う演奏会の特性と課題 | 増田 朱音
(広島大学大学院・院生) |
| ② 20世紀初頭ドイツの音楽教育 | 竹下 夏生
(大分大学大学院・院生) |
| ③ 芸術教育において「表現」はどのように捉えられうるか | 前田 舞子
(鳥取短期大学) |
| ④ 中学校音楽科における家庭用学習動画の有用性 | 齋藤 紘希
(広島大学附属三原中学校) |
| ⑤ イタリアの公立中学校音楽コースにおけるインクルーシブ教育の実際
— A 中学校の視察と教師へのインタビューを中心に— | 大野内 愛
(広島大学) |
| ⑥ 奏法を視点とした初等音楽科鑑賞教育における ESD 実践研究
— ノーズフルート (鼻笛) 体験を通して— | 梅比良 麻子
(広島大学附属小学校) |
| ⑦ ICT 機器を活用した創作の授業の展開
— 中学3年生音楽科における実践— | 藤井 菜摘
(九州龍谷短期大学) |

12 — 「国語 I 」 部会

司会者：間瀬 茂夫
(広島大学)

- | | |
|--|-------------------------|
| ① 絵画を用いた文学教育に関する研究 | 佐藤 洋介
(広島大学大学院・院生) |
| ② 戦後漢文教育実践史の展開
— 史伝教材を中心に — | 渡辺 春美
(京都ノートルダム女子大学) |
| ③ 吃音との向き合い方と教育現場における支援方法の研究
— 国語科教育「話すこと・聞くこと」の領域を中心に — | 伊井 健
(関西学院大学大学院・院生) |
| ④ 西郷文芸学における「虚構としての文芸作品の自在に相変移する入
子型重層構造」に関する一考察 | 村尾 聡
(兵庫教育大学大学院・院生) |
| ⑤ Arts を中心とした STEAM 教育による学習開発
— 創造的思考に焦点を当てて — | 西本 有輝
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ 読みの枠組みを問い直す小説の学習
— 「走れメロス」の再読を通して — | 茅野 克利
(鳴門教育大学大学院・院生) |
| ⑦ ドイツ職業学校における文学教育 | 土山 和久
(大阪教育大学) |

13 — 「第二言語（英語・日本語）」部会

司会者：猫田 和明
(山口大学)

- | | |
|---|-----------------------|
| ① コロナウイルスコーパス
ーその特徴と英語教育への応用ー | 水島 祐人
(海技大学校) |
| ② 英語によるディクテーション力と日本語による英文要約力の関係 | 浅井 智雄
(福山平成大学) |
| ③ 小学校英語教育の指導方法に関する考察
ー文法指導に着目してー | 栗村 正仁
(美作大学大学院・院生) |
| ④ 意見文におけるバイリンガルの説得のストラテジーの特徴
ー同一社会文化を背景とするバイリンガルに着目してー | 西條 結人
(広島大学大学院・院生) |
| ⑤ 異なる教授年数の中国人日本語教師が持つ教育観の相違
ー養成段階からベテランまでの日本語教師を対象にー | 成 利楽
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ 90年代以前のロシア・ハバロフスク市における日本語教育史
ーゲオルギー・ペルミャコフ氏の生涯からー | 竹口 智之
(関西大学) |

大会 第二日

14 —「道德教育・市民性教育」部会

司会者：矢野 博史

(日本赤十字広島看護大学)

- | | |
|--|-----------------------|
| ① ICCS 調査に内在する市民性観・市民性教育観の特質
－ civic attitude に焦点化して－ | 小栗 優貴
(広島大学大学院・院生) |
| ② 日本におけるシティズンシップ教育の変遷に関する批判的考察
－公民教育から市民性教育へ－ | 高須 明根
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 学級が持つ「友情」形成支援機能に関する考察
－ N. ルーマンの社会システム理論を手がかりに－ | 鈴木 篤
(大分大学) |
| ④ 学校における「死の教育」の可能性と課題 | 毛 月
(広島大学大学院・院生) |
| ⑤ 19世紀末バーミンガム学務委員会立学校における世俗教育としての
道德教育 | 中村 好甫
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ 全人的教育視点から考える道德教育方法の創造
－教育思想、教育方法の側面から考える教育原理の考察－ | 作田 澄泰
(早稲田大学) |
| ⑦ SDGs に関する学校教育実践
－英国における教師用手引の検討から－ | 山口 裕毅
(岡山市役所) |

15 —「教育史Ⅱ」部会

司会者：杉原 薫
(鹿児島大学)

- | | |
|---|-----------------------|
| ① 20世紀転換期英領植民地下ラゴスの教師 | 太田 淳平
(広島大学大学院・院生) |
| ② 20世紀初期のシカゴ大学における保育者養成 | 井本 美穂
(岡山理科大学) |
| ③ 地方紙『Journal de Toulouse』に見る19世紀中葉トゥルーズの学生 | 大矢 龍弥
(広島大学大学院・院生) |
| ④ 明治前期の家塾
—教授科目を中心に— | 井上 快
(東九州短期大学) |
| ⑤ 岐阜県における高等女学校卒業生の進路動向 | 烏田 直哉
(東海学園大学) |
| ⑥ 撰閲家の後継者育成
—藤原頼長を中心に— | 鈴木 理恵
(広島大学) |

16 — 「教育と社会」部会

司会者：藤村 晃成
(大分大学)

- | | |
|---|---|
| ① 不登校経験者は不登校をいかに語るのか | 佐々木 龍平
(広島大学大学院・院生) |
| ② 中国のレッスン・スタディが教員の成長に与える影響 | 陳 雨
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 地域福祉活動と小学校の連携 | 中嶋 裕子
(福山平成大学) |
| ④ 情報モラル教育を通じた「自己指導能力」育成に関する考察 | 友近 秀章
(愛媛大学大学院・院生) |
| ⑤ 教員免許更新制をめぐる政策過程 | ○山田 浩之
(広島大学)
周 正
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ A Survey on Chinese Students of Japanese Higher Normal Schools After Graduation | ○楊 駒
○班 婷
(愛媛大学) |

※本発表は、2019年度中国四国教育学会「課題研究」(課題研究名：「中国の師範教育近代化における日本の高等師範学校の役割—留学生に着目して—」)の助成対象である。

17 — 「大学生」 部会

司会者：西本 佳代
(香川大学)

- ① 大学生から見る保護者の教育意識
森 成大
(広島大学大学院・院生)
- ② ボーダーフリー大学生研究の到達点とその課題
宇田 響
(くらしき作陽大学)
- ③ 大学生のキャリア意識からみる推薦入試
作田 良三
(松山大学)
- ④ コロナ禍に関する保育学生の意識調査
○荒谷 容子
(岩国短期大学)
富田 雅子
(岩国短期大学)
- ⑤ 中国における「三本大学生」の大学生活
呉 彤
(広島大学大学院・院生)
- ⑥ 中国における大学生のキャリア意識
成 倩倩
(広島大学大学院・院生)
- ⑦ 中国の師範大学における教育実習の効果に関する事例研究
—教育実習を通じた実習生の意識変容に着目して—
○王 紀文
(広島大学大学院・院生)
○王 元貞
(広島大学大学院・院生)

18 —「授業研究」部会

司会者：竹内 元
(宮崎大学)

- ① 「学習集団」を生かす「読み」の授業づくり
－「読みの力」を育むことを目指した大西忠治に着目して－
清徳 大輝
(広島大学大学院・院生)
- ② 演劇的解釈活動を用いた読みの学習指導の実践的研究
井上 陽太
(大阪教育大学大学院・院生)
- ③ イギリスにおける歴史を大観する学習はいかに実践されているのか
－ Carroll による実践を事例にして－
高松 尚平
(広島大学大学院・院生)
- ④ カナダにおける歴史の民主化のための歴史教育論
－ Seixas の Historical Thinking Concepts を手がかりに－
渡邊 竜平
(広島大学大学院・院生)
- ⑤ プロイセン教育改革期の学校改革論争点としての教育的教授
宮本 勇一
(広島大学・日本学術振興会特別研究員)
- ⑥ イエナ・プラン教育実践研究の現状と課題
安藤 和久
(広島大学大学院・院生)
- ⑦ 授業研究における分析と評価
－校内研修に果たす役割と課題－
○深澤 広明
(広島大学)
○宮本 勇一
(広島大学・日本学術振興会特別研究員)
○安藤和久
(広島大学大学院・院生)
○櫻井瀬里奈
(広島大学大学院・院生)
○藤原由佳
(広島大学大学院・院生)
○金原遼
(広島大学大学院・院生)

19 — 「教育方法」 部会

司会者：山根 俊喜
(鳥取大学)

- | | |
|---|---------------------------------------|
| ① 教師－生徒間の非対称的権力関係を対象化する社会科教育実践のストラテジー
－権力へ自律的な民主主義社会の市民を育成するために－ | 奥村 尚
(広島大学大学院・院生) |
| ② アウトプットアクティビティの開発
－中学校社会科の授業実践を通して－ | 黒河 新
(愛媛大学大学院・院生) |
| ③ 学習科学を基盤とした歴史教育の研究方法論
－イギリス構成主義歴史教育研究者・P. Lee の場合－ | 玉井 慎也
(広島大学大学院・院生) |
| ④ 米国における教科内容の読解指導の方法に関する研究 | 中野 和光
(美作大学) |
| ⑤ ヴァーゲンシャインの授業論の今日的意義 | 二宮 諒
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ インクルーシブ教育における授業集団の検討 | 吉田 茂孝
(大阪教育大学) |
| ⑦ メディア・システムとしての集団 | ○松田 充
(広島大学)
○山田 直之
(神戸女子大学) |

20 — 「後期中等教育」部会

司会者：吉田 香奈
(広島大学)

- ① 中国における高大接続プログラムの展開
石井 佳奈子
(広島大学大学院・院生)
- ② 高等学校における「キャリア・パスポート」導入の現状と課題
河野 直子
(愛媛大学大学院・院生)
- ③ 日本における高等学校通信制課程に関する研究
川本 吉太郎
(広島大学大学院・院生)
- ④ 通信制高校の学習システムの変容の影響に関する一考察
本田 弥生
(広島市立美鈴が丘中学校)
- ⑤ 課題研究の評価方法に関する一考察
○小川 佳万
(広島大学)
○小野寺 香
(奈良女子大学)

21 —「学校経営」部会

司会者：熊丸 真太郎
(島根大学)

- ① 『個が生きる』を体現するカリキュラム・マネジメントに関する考察
中村 敏裕
(広島大学大学院・院生)
- ② 教職志望学生の協働的省察過程に関する一考察
—実践共同体への参加に着目して—
北山 佳恵
(広島大学大学院・院生)
- ③ 1960年代米国小学校教員養成におけるコンピテンス基盤型教育
—米国教育庁小学校教員養成プロジェクトを中心に—
宗近 秀夫
(広島大学大学院・院生)
- ④ 教師の専門職アカウンタビリティと「信頼」の重要性
大塚 友貴
(広島大学大学院・院生)
- ⑤ 教職大学院における「スクールリーダー教育者」の力量形成の課題
○曾余田 浩史
(広島大学)
○金川 舞貴子
(岡山大学)
○山本 遼
(大分大学)
○佐々木優
(広島大学院・院生)
○横山達也
(広島大学院・院生)
- ⑥ 学び続ける教員の育成に関する一考察(4)
—創造的な組織文化の醸成に向けて—
○吉賀 忠雄
(広島大学)
○大久保 幸則
(広島大学)
○米谷 剛
(広島大学)
○木佐木 太郎
(広島大学)

22 — 「教師教育Ⅱ」部会

司会者：諏訪 英広
(川崎医療福祉大学)

- | | |
|--|--|
| ① 教員に求められる資質能力観の変容 | 周 正
(広島大学大学院・院生) |
| ② 中国農村部における教員のライフヒストリー | 趙 春穎
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 教師教育におけるコンテンツとコンピテンシーの関係性の歴史的研究
－新制東北大学の教師教育者の事例から－ | 久恒 拓也
(新見公立大学) |
| ④ 若手地理教師の「本質的な諸相への気づき」をいかに支援するか
－継続的なオンライン研修会のデザインとその効果－ | 宅島 大堯
(広島大学大学院・院生) |
| ⑤ 社会系教員志望学生の「洗い流し」はどのようなものか？
－Ovensら(2016)の「教師になる」概念を手掛かりに－ | 真崎 将弥
(広島大学大学院・院生) |
| ⑥ 子どもとの相互作用の中で成長する教師
－教員養成課程における4年次生の教師像と資質能力の分析から－ | ○別惣 淳二
(兵庫教育大学)
○大関 達也
(兵庫教育大学) |

23 — 「幼児教育Ⅱ」部会

司会者：七木田 敦
(広島大学)

- | | |
|--|---|
| ① 幼児の音楽的な認知能力の獲得プロセス
— 言語習得の視点を元に — | 尾瀨 千咲
(広島大学大学院・院生) |
| ② 幼児の音楽表現を支える保育者の関わりと音環境 | 藤尾 かの子
(エリザベト音楽大学) |
| ③ 幼児期における自然体験と想像力についての事例的検討
— S. Fesmire の『生態想像力』概念を手がかりに — | ○中丸 創
(かえで幼稚園)
山本 一成
(滋賀大学) |
| ④ 「幼稚園教育要領」における領域「人間関係」の内容論(1)
— その歴史的変遷 — | 小尾 麻希子
(武庫川女子大学) |
| ⑤ 幼児理解と支援に必要な条件
— 新規採用教諭の研修を通して — | 井筒 敦子
(エリザベト音楽大学) |
| ⑥ 保育内容(言葉)におけるシラバスに関する一考察
— テキストマイニングによる分析 — | ○谷原 舞
(大阪信愛学院短期大学)
○田中 卓也
(静岡産業大学)
○加藤 緑
(清和大学短期大学部) |

24 — 「音楽Ⅱ」部会

司会者：大野内 愛
(広島大学)

- | | |
|---|--|
| ① 米国・コロラド州音楽スタンダードにおける「美的評価」 | 廣濱 隆世
(広島大学大学院・院生) |
| ② 音楽と人間の芸術的な関わり
—美的価値に着目して— | 青木 彩絵子
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 旧制中学校校歌と高等女学校校歌の比較分析
—北海道内の学校を中心に— | 須田 珠生
(京都大学人文学連携研究者) |
| ④ 音楽科における教材研究の改善に関する一考察
—大学院生の視点に着目して— | 河邊 昭子
(兵庫教育大学) |
| ⑤ 高山短期大学附属幼稚園における「ふしづくりシステムによる幼児の音楽リズム」の初期のカリキュラムの特徴 | ○三村 真弓
(エリザベト音楽大学)
吉富 功修
(広島大学名誉教授) |
| ⑥ 中学校音楽科の鑑賞共通教材に関する研究
—昭和33年学習指導要領におけるベートーヴェン作曲交響曲第6番『田園』を中心として— | ○吉富 功修
(広島大学名誉教授)
三村 真弓
(エリザベト音楽大学) |

25 — 「国語Ⅱ」部会

司会者：山元 隆春
(広島大学)

- | | |
|---|--|
| ① 通常の学級に在籍する自閉スペクトラム症児が気持ちを認知・強化するためのことばの研究 | 足立 詠美
(関西学院大学大学院・院生) |
| ② 経験されたカリキュラム論と国語教育 | 大野 響
(広島大学大学院・院生) |
| ③ 小学校国語教科書における科学的説明文教材の史的考察 | 幾田 伸司
(鳴門教育大学) |
| ④ 輿水実の国語教育観の醸成と展開 | 皆尾 賛
(広島大学大学院・院生) |
| ⑤ 「いい子」の内的抑圧を和らげる国語科教育の研究 | 南咲 貴子
(関西学院大学大学院・院生) |
| ⑥ 漢文の翻訳におけるプロセスジャンルアプローチの試み
— 『顔氏家訓』勉学第八を翻訳する— | ○小路口 真理美
(大阪教育大学)
○岡寄 友一
(広島県立呉三津田高等学校) |

ラウンドテーブル1

子どもの学習改善に寄与する教科横断的な 学習評価実践の構想

—「主体的に学習に取り組む態度」をいかに評価するか？—

【企画者】

玉井 慎也 (広島大学大学院・院生)

宅島 大堯 (広島大学大学院・院生)

【提案者】

玉井 慎也 (広島大学大学院・院生)

宅島 大堯 (広島大学大学院・院生)

【趣旨】

「主体的に学習に取り組む態度」は、何のために・誰が・何を・どのように評価するのか。学習指導要領改訂の目玉の一つとして取り上げられた「主体的に学習に取り組む態度」の評価観点を巡っては、前述の問いの形で教育現場からの不安・悩みの声が寄せられているこうした声の主体には、教師だけではなく、子どもも含まれている。本ラウンドテーブルでは、① 教師の指導改善のための評価・事後的な評価ではなく、子どもの学習改善に寄与する教室内での「新しい形成的評価：学習のための評価／学習としての評価」の理論的な動向を整理する。そして、② 当日集まった各教科教育・教師教育・教育方法などの多様な学問領域を背景とする研究共同体で「新しい形成的評価」の実現を目指した教科横断的な「主体的に学習に取り組む態度」の評価実践を描きたい。本ラウンドテーブルを通して、冒頭に見た教師・子どもの声に応えられる評価リテラシーを養いたい。

ラウンドテーブル2

写真を使った記録

【企画者】

- 田島 大輔 (和洋女子大学)
久留島 太郎 (植草学園短期大学)
牧野 彰賢 (ほうりん福祉会)
和泉 誠 (こどもな一と)

【提案者】

- 田島 大輔 (和洋女子大学)
久留島 太郎 (植草学園短期大学)
牧野 彰賢 (ほうりん福祉会)
和泉 誠 (こどもな一と)

【趣旨】

昨今の働き改革の影響もあり ICT を利用している園も増大に増え、田島 (2018) 等によると色々な写真記録を行っている園が非常に多くなってきており、保育の質の向上を目指すという取り組みの中に、写真記録は必要不可欠である事が考えられる。昨年度の発達心理学会では、ドキュメンテーションやラーニングストーリー等の違いと共に、意味や立場などそれぞれの立場から様々な方法を使い試行錯誤しながら写真を、保育の中で記録としてとり入れてきている実践について、対話した。本ラウンドテーブルにおいては、話題提供者がそれぞれの立場で実践を基に対話することにより写真記録が様々な立場・方法・手法等を越えて何がどのように見えてくるのか、質や保育にどのような影響がみえてくるのかについて考えていきたい。ネガティブな側面や難しさなども皆様と共に議論し、写真記録と保育との関係性について考える機会にしていきたい。

ラウンドテーブル3

教育と科学の思想史 —19世紀末から20世紀初頭を中心に

【企画者】

杉田 浩崇 (広島大学)

【提案者】

熊井 将太 (山口大学)

白石 崇人 (広島文教大学)

杉田 浩崇 (広島大学)

宮原 順寛 (北海道教育大学)

【指定討論者】

深澤 広明 (広島大学)

【趣旨】

近年広がりつつあるエビデンス(客観的根拠)に基づく教育政策・実践に対しては賛否両論あるが、批判する側がそのレトリックを問題にするに留まり、論争がかみ合っていないと指摘されている。その中で論争の舞台を形成している問題構制自体を思想史的に問いなおす試みもなされ始めている。そこで本企画では、実証的科学的台頭とそれに対する教育学の応答が先鋭的になされた19世紀末から20世紀初頭に着目し、教育と科学がどのような関係を取り結んだ／取り結ばなかったのかを検討する。19世紀末から20世紀初頭には、統計学や遺伝学、実験心理学などの展開を受けて、教育学では精神科学的教育学や文化教育学、実験教育学や児童心理学など様々な応答が見られた。本企画では日本、ドイツ、アメリカを中心に、教育と科学の境界がどのように揺れ動いていったのかを探ることで、エビデンスに基づく教育をめぐる論争の問題構制を俯瞰的に眺める視座を獲得したい。

ラウンドテーブル4

〈人口減少社会における学校〉の諸相

【企画者】

山田 直之 (神戸女子大学)

【提案者】

丸橋 静香 (島根大学)

時津 啓 (島根県立大学)

尾川 満宏 (愛媛大学)

安喰 勇平 (茨城キリスト教大学)

松尾 奈美 (島根大学)

【趣旨】

現代日本では人口減少が進み、教育に、とりわけ「地域×学校」に期待が寄せられている。学校が地域と連携することで、地域創生の核となるというモデルが描かれ、一方ではコミュニティスクール研究、ソーシャルキャピタル研究、地域をフィールドにする「探究学習」やキャリア教育等の研究が進んでおり、他方では人口動態変容を踏まえた、新しい公教育構想が生まれている。これらの議論は教育学内部では完結しないため、「教育（政策）の経済（政策）への従属」が懸念されつつも、土着で個別具体的事例を通じた「下からの学校改革」を推進してきた。いま求められるのは、マクロな視点とミクロな視点を繋ぐ思想の構築であろう。

そこで本ラウンドテーブルでは、「地域×学校」を取り巻く諸問題を繋ぐ原理的な視点を得ることをめざし、多様な視角から〈人口減少社会における学校〉について議論する。フロアを交えた討論を通じて、新たな学校のかたちを探りたい。

※本企画は、2020年度中国四国教育学会「課題研究」（課題研究名：「〈人口減少社会における学校〉の概念化に関する研究」）の助成対象である。

